

石狩浜海岸林の保護林新設について

令和7年3月6日
北海道森林管理局

目 次

1. 石狩浜海岸林の生物多様性の保全の必要性	・・・1
2. 保護林設定に向けた議論の前提として	・・・2
3. 石狩浜海岸林を巡る再生可能エネルギーの動向	・・・3
4. これまでの保護林管理委員会での議論の経緯	・・・4
5. 石狩浜海岸林を保護林に設定するに当たっての森林管理局の考え	・・・5
6. 今後の対応（案）	・・・6～7
7. 保護林設定の名称及び区域（案）	・・・8
8. 保護林設定の新設理由等（案）	・・・9

（参考）

- 1 石狩浜海岸林の概要
- 2 石狩浜海岸林における森林生態系多様性調査の結果(概要)
- 3 石狩浜海岸林の希少野生生物

1 石狩浜海岸林の生物多様性の保全の必要性

令和5年度に北海道森林管理局が委託発注した「石狩浜海岸林における森林生態系生物多様性調査」事業において、石狩浜海岸林の国有林野については、

- ① 特殊な地形に存在する独特の海岸植生から後背地の森林群落における森林生態系が存在する
- ② まとまった面積で規模も大きく、風衝型のカシワからミズナラによって構成される自然状態が十分保存されている数少ない海岸林である
- ③ 国内希少野生動植物種のアカモズの生息や、世界でも数少ないエゾアカヤマアリのスーパーコロニーの存在が確認される

など、保護林として指定することによる普遍的価値を維持していくことが重要であることが示されたところであり、その生物多様性を保全する必要性があると北海道森林管理局として認識。

2 保護林設定に向けた議論の前提として

国有林野については、その管理経営の目標を

- ① 国土の保全その他国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るとともに、あわせて
- ② 林産物を持続的かつ計画的に供給し、及び
- ③ 国有林野の活用によりその所在する地域における産業の振興又は住民の福祉の向上に寄与する

ことにあるものとしている（国有林野の管理経営に関する法律第3条）。

このうち、国有林野の活用については、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、森林内における風力や地熱といった再生可能エネルギーの導入促進への期待が高まっており、

特に国有林野には風力や地熱による発電の立地条件に適した箇所が多くあることから、森林の公益的機能の発揮など国有林野の適切な管理経営と調和する再生可能エネルギーの適正な利用を図ることとしている（「風力発電・地熱発電に係る国有林野の貸付け等手続きマニュアル」の制定について（令和3年9月30日付け3林国業第119号林野庁経営企画課長・業務課長通知））。

3 石狩浜海岸林を巡る再生可能エネルギーの動向

石狩浜海岸林を巡る再生可能エネルギーについては、

- ① 石狩浜では、安定した風況から稼働率の高い風力発電が期待できることから、これまで民有地を中心に風力発電の設置が進められてきた
- ② 政府や北海道から再生可能エネルギーのポテンシャルの高いエリアとして指定を受け、地域の脱炭素と産業振興の両立を目指す取組が先行的に進められている

といった状況にある。

このような中、石狩浜海岸林の国有林野に関しても、これまで事業者から風力発電のための貸付けの可能性について相談が寄せられてきている。



これまで2回にわたり、石狩浜海岸林における保護林設定に関して次のように様々なご意見をいただいていたところ。

- ① 風力発電の設置に関し、海岸林を少しでも伐開すると、エビデンスがないものの、そこに潮風が入り、潮害の影響でカシワの枯死が拡大し、構造の発達した海岸林に復元させることが不可能になるか、100年以上の期間を要することになるのではないかと。
- ② 保護林になると様々な行為に制限が課せられることになるので、地元の自治体の意向を確認すべき。
- ③ 石狩浜に関しては、貴重な海岸林生態系であることを踏まえれば、カーボンニュートラル実現の貢献よりも、生物多様性の保全の方が優先度が高い。
- ④ 保護林の設定に向けたスケジュールを明らかにすべき。
- ⑤ 新設理由において、エゾアカヤマアリのスーパーコロニー等の海浜生態系の記述が弱い。

5 石狩浜海岸林を保護林に設定するに当たっての森林管理局の考え

北海道森林管理局としては、前述までを踏まえ、

- ① 生物多様性や飛砂防備をはじめとする石狩浜海岸林の有する公益的機能の維持増進

を達成しつつ、あわせて

- ② 海岸林が所在する地元の地域振興への寄与
- ③ 再生可能エネルギーの適正な利用を通じたカーボンニュートラル実現への貢献

の3点が調和する形で、石狩浜海岸林を保護林に設定することを検討することとしてきた。



北海道森林管理局では、保護林管理委員会の御意見を踏まえ、改めて石狩浜海岸林の現地調査を実施するなどにより保護林設定に向けた作業を更に進めてきたところ（現地調査結果については、別添の参考資料を参照。）。

この現地調査においては、次のようなことを確認した。

- ① 海岸林を横断している道路に隣接する森林においても、カシワ群落（風衝型）からカシワ－ミズナラ群落の海岸林が構成されていた。
- ② 海岸砂丘の低いエリアでは、海岸砂丘の高いエリアに比べ、海岸林が陸側に追い込まれている状況にあった。（積雪により視認できなかったが、カシワ群落（風衝型）の前面に多くのススキ群落やハマナス群落等が成立しているのではないか）
- ③ 浜堤の内陸側で攪乱が生じた一部区域では、ニセアカシアの侵入がみられる一方で、カシワ群落の内部までは侵入していなかった。

このようなことから、今後、さらに保護林としての適切な設定のあり方に関する議論を深めるために、委員とともに、委員会として更なる現地調査や保護林区域の精査が必要と考えられる。

ついては、令和7年度においては、保護林管理委員会による石狩浜海岸林での現地検討会を開催し、令和9年度の石狩空知森林計画区での国有林野施業実施計画の樹立に合わせて当該海岸林を保護林に設定するよう取組を進めていくこととしたい。

7 保護林設定の名称及び区域（案）

名称：石狩浜海岸林生物群集保護林

石狩浜は、石狩湾に面する浜堤平野の名称として定着していると考えられる。

また、海岸林特有の生物群集であることがイメージできるような名称とする。

設定区域



8 保護林設定の新設理由等（案）

石狩浜海岸林生物群集保護林（新設）

* 赤字は前回提出した資料に追記したもの

新設理由等	・石狩浜海岸林は、1850年代から乱伐が禁止され保存されてきたことにより、今でも原生的な自然が多く残されている。 ・浜堤平野という特殊な地形に存在する独特の海岸植生から後背地の森林群落における森林生態系が存在している。 ・日本国内において、まとまった面積で規模も大きく、風衝型のカシワからミズナラによって構成される自然状態が十分保存されている数少ない海岸林の一つとなっている。 ・1970年代にはエゾアカヤマアリのスーパーコロニーとしての生息環境があった海岸地域であり、現在も種数は減少したがコロニーとしての生息環境が成立している。 ・希少種の特徴的な動植物として、アカモズ、イソコモリグモ、キタハウネンエビ、エゾアカヤマアリ、アカダマスツポントケを確認しており、海岸と森林で構成される生態系として当該海岸林を保護していく必要がある。この中でも、アカモズについては、過去100年で分布域が90.9%減少したと報告されている中であって、全国で149つがいと推定されているうち石狩周辺に推定40つがいがあると報告されているところであり、本種の重要な繁殖地となっている。
保護対象と生息・生育区域	・石狩浜海岸林の生物群集を有する森林（約600ha） - ただし、ニセアカシア（外来種）が高密度に侵入している森林の区域は除くものとする。 - さらに、海水浴場に接している区域や国有林野の活用によるものなど人為的影響が懸念される区域の森林を除く。
現状と想定される影響等	・石狩浜海岸林が存在する地形は長時間かけて出来あがった浜堤平野である。 ・植生は海側から海岸草原-カシワ（風衝型）-カシワ群落-カシワ・ミズナラ群落となっており、同様の植生が横断的に石狩海岸沿いに続いている。 ・石狩浜海岸林を含む石狩浜は、北海道自然環境保全指針で定める「すぐれた自然地域」に指定されている。 ・風力発電施設の設置計画が示されていることから、この計画との調整を図る必要がある。 ・海岸側の民地の一部には、風力発電の既設施設があることから、今後の環境影響など推移を観察することも重要である。
地帯区分(案)	全域を保存地区とする。

参 考

- 1 石狩浜海岸林の概要 … 1～5
- 2 石狩浜海岸林における森林生態系多様性調査
の結果（概要） … 6
- 3 石狩浜海岸林の希少野生生物 … 7～9

石狩浜海岸林の沿革

石狩森林管理署が管轄する石狩浜海岸林については、1850年代に石狩役所が乱伐を禁止する布令を出して保護したところ。

その後、昭和22年の林政統一により札幌営林署（(現)石狩森林管理署）が管理することとなり、当該森林を防風保安林に指定し、引き続き管理している。

これまでの間には、理由は不明であるが小規模な伐採が行われ、原生林の姿が失われた箇所もあるが、現在も原生的な森林が多く残されていると考えられる。

このほか、石狩浜海岸林に隣接する石狩浜は、海岸砂丘地形、大規模な海浜植物群落、日本最大規模のカシワ天然海岸林、これらが織りなす海岸砂丘特有の生物多様性に富んだ自然が大規模に残された全国的にも貴重な自然海浜であることを理由に、北海道自然環境保全指針で定める「すぐれた自然地域」に指定されている。

（参考）日本国内の海岸林の状況

日本の海岸林の大部分は人工林であり、その植栽は江戸時代に始まっている。

北海道では、江戸末期からニシン漁が盛んとなり、多くの海岸林が、ニシン粕製造のための燃料として伐採された。

このため、天然林としての海岸林は、ほとんど残されていないと考えられる。

※資料：太田猛彦（海岸林形成の歴史）、小泉聡美（漁業と森林）

参考 1 石狩浜海岸林の概要－ 2

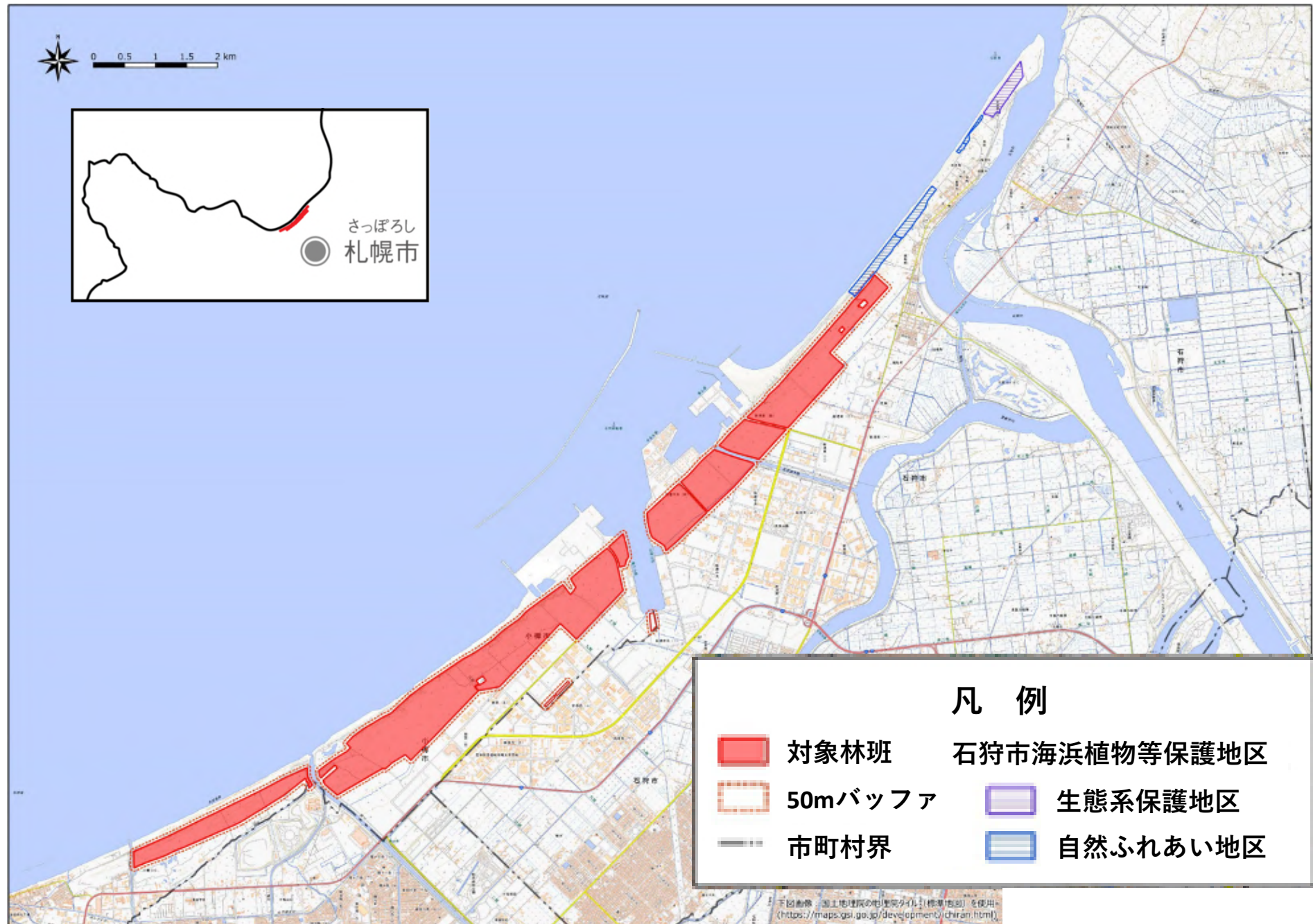
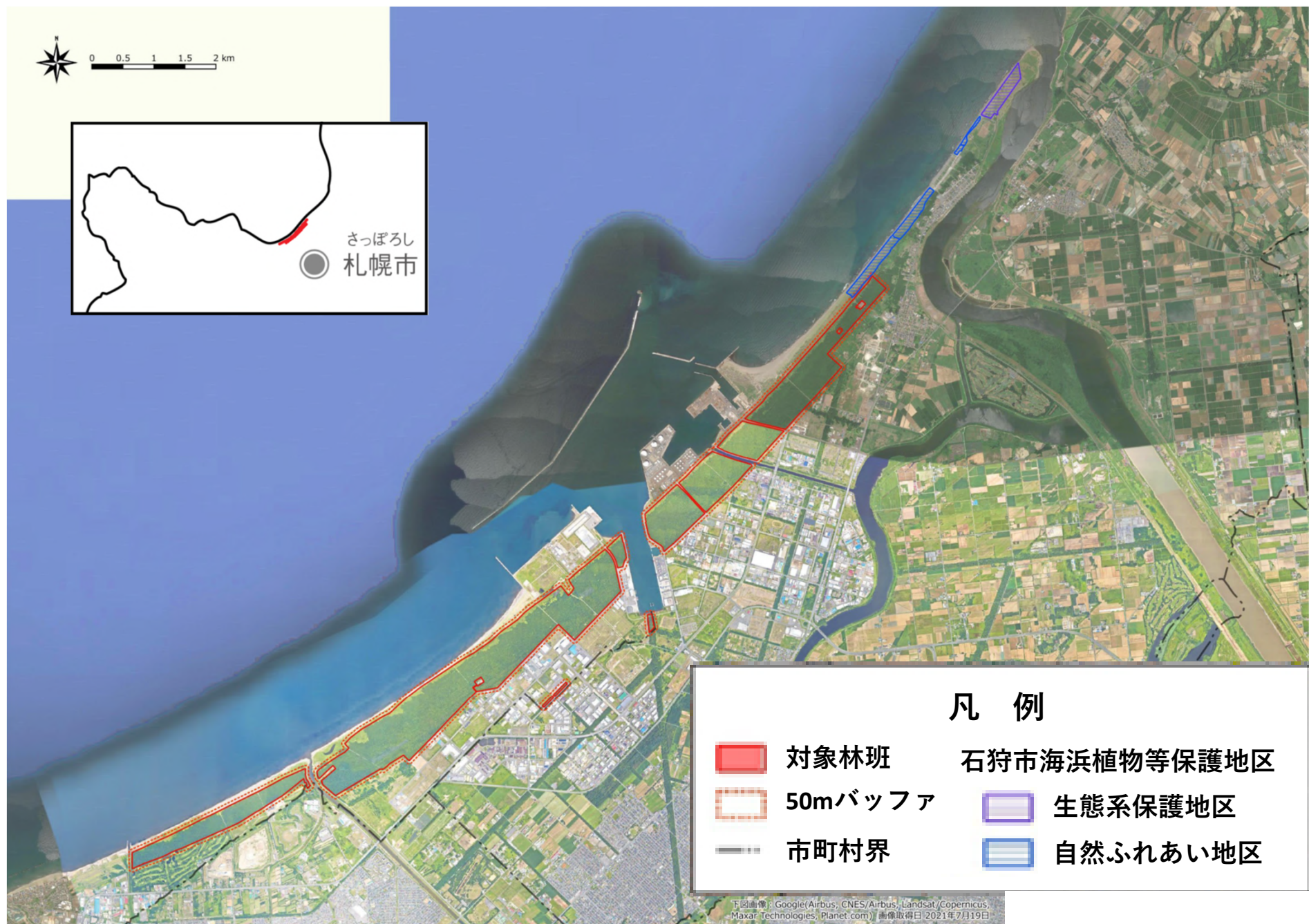


図1 石狩浜国有林 位置図(地形図ベース)

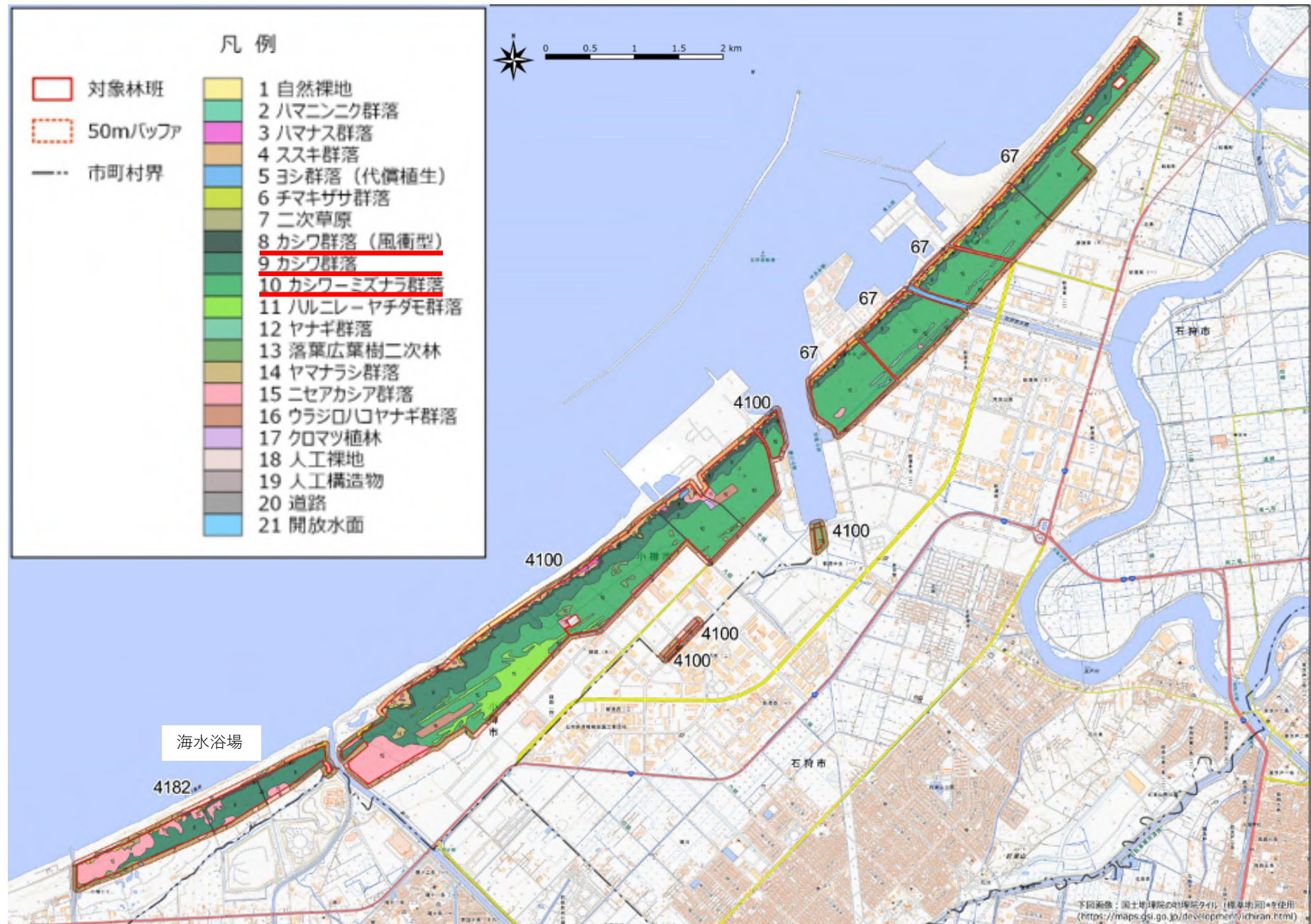
参考 1 石狩湾海岸林の概要－ 3



衛星画像

参考 1 石狩浜海岸林の概要－ 4

植生図（石狩浜海岸林における森林生態系生物多様性調査の結果）

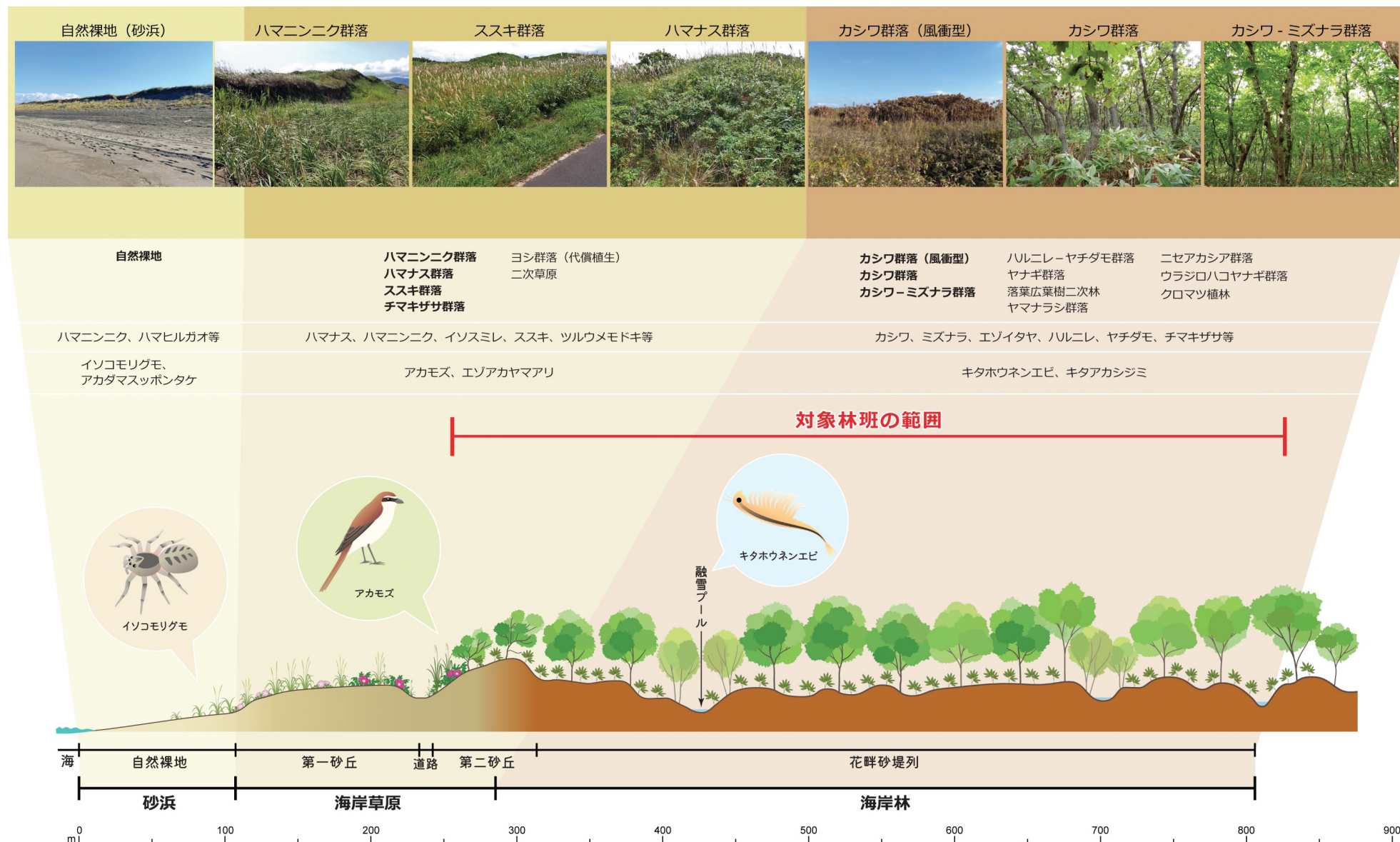


資料：北海道森林管理局（石狩浜海岸林における森林生態系生物多様性調査）

参考 1 石狩浜海岸の概要ー 5

石狩浜では海から陸に向かって以下のような森林植生等が繋がっている。

このような森林植生等が、石狩市から小樽市にかけての浜沿いに25km程度存在している。



※断面図の形状は国土地理院の基盤地図情報サイトから数値標高モデル (5m) を取得してラスター画像を作成した後、QGIS 3.28.5 で Profile Tool を使用してラスター画像から断面図を作成した。

参考文献：石狩浜ブックレット 石狩浜の昔と今と、これから 海浜植物保護センター 20 周年実行委員会 2021。
石狩湾新港風力発電所に係る環境影響評価書 エコ・パワー株式会社 2016。

参考 2 石狩浜海岸林における森林生態系多様性調査結果（概要）

令和 5 年度に北海道森林管理局による石狩浜海岸林の森林生態系多様性調査を実施。以下、概要を記載した。

1 海岸林調査

主要群落は①カシワ群落(風衝型)②カシワ群落③カシワーミズナラ群落

2 隣接海岸草原 植生調査

主要群落は①ハマナス群落②ススキ群落

3 希少種、特徴的な動植物

アカモズ（環境省レッドリスト：絶滅危惧ⅠB類）

イソコモリグモ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）

キタハウネンエビ（環境省レッドリスト：情報不足）

エゾアカヤマアリ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）

アカダマスツポントケ（環境省レッドリスト：絶滅危惧ⅠA類）

参考3 石狩浜海岸林の希少野生生物ー 1

アカモズ

アカモズは、環境省レッドリスト2020では絶滅危惧ⅠB類に、北海道レッドデータブックでも絶滅危惧ⅠB種に指定されている。

モズに比べ生息環境は限定的であり、主に低木のある自然草地で繁殖する。

繁殖に成功したアカモズは、前年と同じ繁殖地に戻ってくる傾向があり、生息地の環境破壊による影響を受けやすい種であった (Philopatry and habitat selection in Bull-headed and Brown shrikes. J. of Field Ornithology, 74(1):45-52 (2003))。

アカモズの生息環境を把握するため、「-アカモズの郷-いしかり希少種保全事業業務報告書」に記載されている石狩川河口周辺のアカモズの生息情報を元に確認した。

その結果、アカモズが確認されている場所の一部は、石狩浜海岸林が含まれていたため、現地で確認した結果、カシワ林に隣接した草地で生息していることが判明した。



写真の出典：森田,2015,道外で撮影

イソコモリグモ

イソコモリグモは、環境省レッドリスト2020では絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

北海道から島根県までの日本海沿岸と茨城県までの太平洋沿岸のごく一部、良好な自然が維持された砂浜に限り局地的に分布する。

イソコモリグモが生息するのは自然の砂浜に限られる。波打ち際に並行して、海浜植物が帯状に分布している海浜植物帯の周辺の砂地に好んで巣をつくる。

海浜植物群落が成立しない砂浜は、踏みつけやその他の人為圧が強すぎるなどの理由でイソコモリグモが必要とする自然状態を維持していないと考えられる (八幡,2009,日本自然保護協会)。



写真の出典：八幡,2009,日本自然保護協会

参考3 石狩浜海岸林の希少野生生物ー2

石狩浜海岸林における特徴的な種（国有林内に限る）

キタハウネンエビ

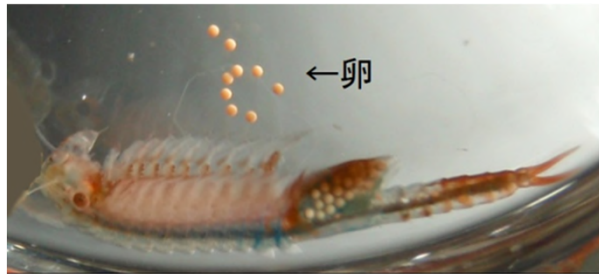
キタハウネンエビは、環境省レッドリスト2020で情報不足に指定されている。

体長が2.5cm程度の淡水性甲殻類で、日本の固有種である。

生息地は北海道石狩湾岸と青森県むつ市の山中でのみ知られている。

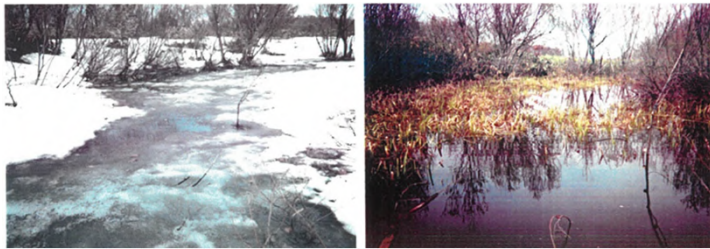
本種は、融雪期に窪地に水がたまってできる天然の一時的融雪プールに発生する。

分布は防風保安林の中に限定されている。



キタハウネンエビ（メス）と卵

（写真の出典：石狩ファイル,2010,石狩市教育委員会）



（写真の出典：石狩港新港地域浮遊生物(キタハウネンエビ), 1998-2002,北海道環境科学研究センター）

エゾアカヤマアリ

エゾアカヤマアリは、環境省レッドリスト2020で絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

体長4.5～7mm。

明るくやや乾燥した環境に営巣し、枯草や針葉樹の葉を用いてアリ塚を形成する。

石狩では、全長10km以上の海岸沿いに分布する巣において敵対関係が見られないスーパーコロニーの存在が知られており、学術的に重要な現象として1983年にIUCNレッドデータブックに登録されている(IUCN, 1983, The IUCN Invertebrate Red Data Book)。

この地域では、エゾアカヤマアリの主な営巣環境は、海岸砂丘から防風林の林縁である。



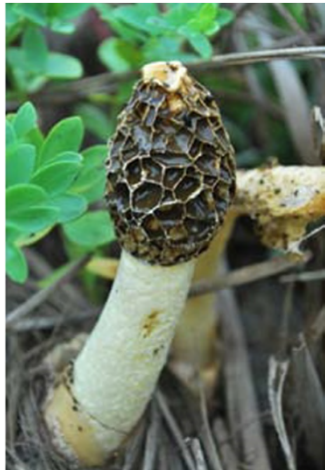
アカダマスッポンタケ

アカダマスッポンタケは、環境省レッドリスト2020で絶滅危惧ⅠA類に指定されている。

本種は海岸砂地に単生もしくは2～3個が合着して発生する。発生時期は夏と秋の年2回である。子実体は約20cmまで成長する。傘の部分にはグレバと呼ばれる粘液状のものが付着し、独特の臭気を放つ。基部から地中深くに菌糸を伸ばし、コウボウムギやハマニンニクなどの海浜植物の枯葉や枯れた茎、地下茎に絡み付く（糟谷ほか,2007,日本菌学会）。

本種の確実な採集記録としては石狩市と斜里町の2箇所のみである。

本種は砂地、特に海岸砂丘に好んで発生し、石狩市ではハマニンニクやコウボウムギが優占する海岸砂丘で採集されている（糟谷ほか,2007,日本菌学会）。このように本種は海浜植物が繁茂する砂地に依存する種であり、海岸草原の改変による影響が甚大と考えられる。



写真の出典：石狩ファイル2018,石狩市教育委員会いしかり砂丘の風資料館

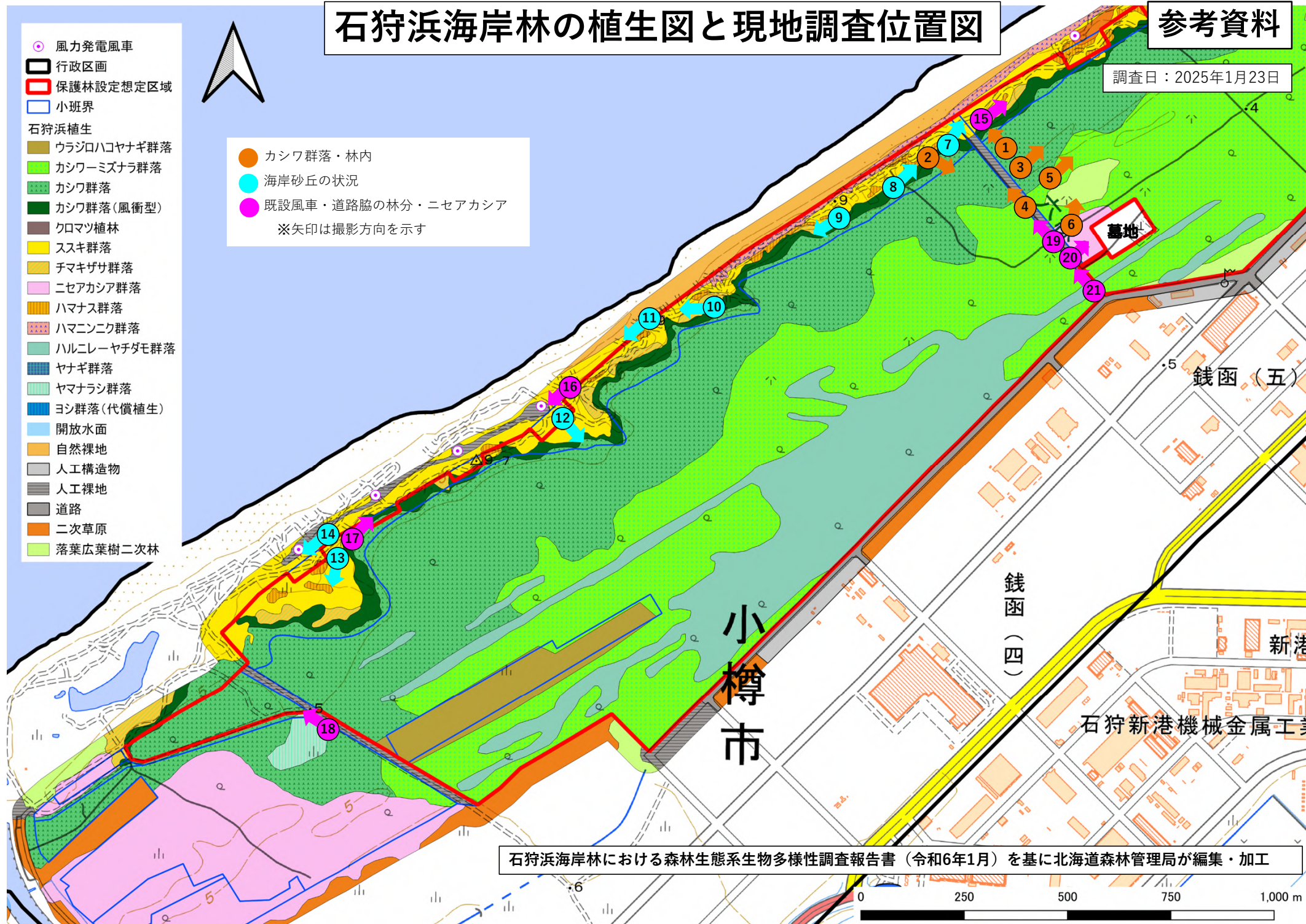
石狩浜海岸林の植生図と現地調査位置図

参考資料

調査日：2025年1月23日

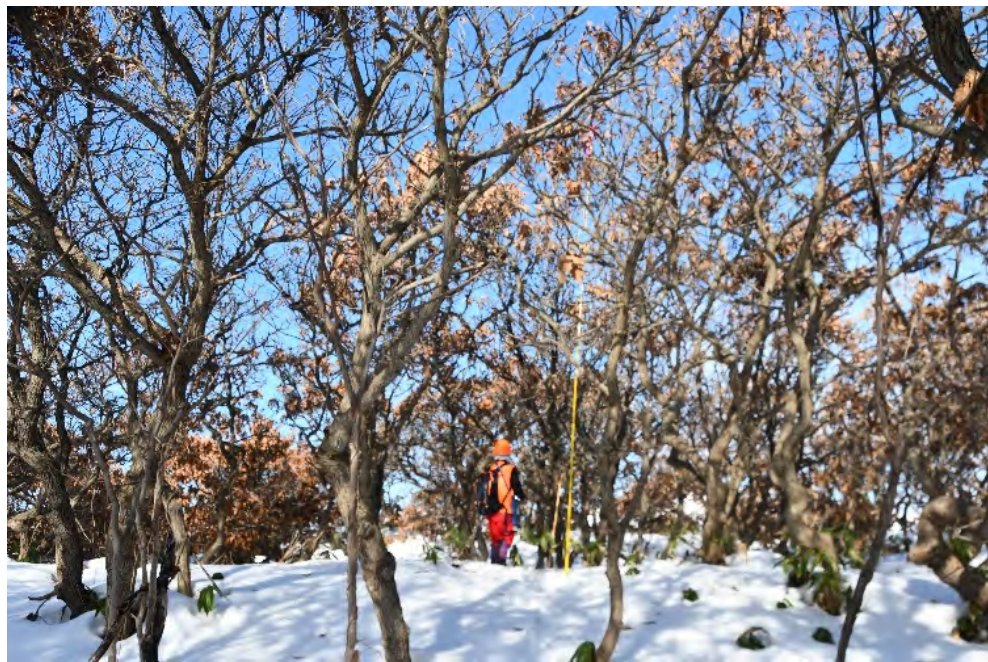
- 風力発電風車
- 行政区画
- 保護林設定想定区域
- 小班界
- 石狩浜植生
 - ウラジロハコヤナギ群落
 - カシワミズナラ群落
 - カシワ群落
 - カシワ群落(風衝型)
 - クロマツ植林
 - ススキ群落
 - チマキザサ群落
 - ニセアカシア群落
 - ハマナス群落
 - ハマニシク群落
 - ハルニレーヤチダモ群落
 - ヤナギ群落
 - ヤマナラシ群落
 - ヨシ群落(代償植生)
 - 開放水面
 - 自然裸地
 - 人工構造物
 - 人工裸地
 - 道路
 - 二次草原
 - 落葉広葉樹二次林

- カシワ群落・林内
 - 海岸砂丘の状況
 - 既設風車・道路脇の林分・ニセアカシア
- ※矢印は撮影方向を示す



石狩浜海岸林における森林生態系生物多様性調査報告書（令和6年1月）を基に北海道森林管理局が編集・加工

カシワ群落・林内



カシワ群落・林内



海岸砂丘の状況



海岸砂丘の状況



既設風車・道路脇の林分・ニセアカシア



既設風車・道路脇の林分・ニセアカシア

19



20



21

